

平成 30 年度 横須賀美術館運営評価報告書について

横須賀美術館は、毎年度運営の評価を行っています。このたび、平成 30 年度の評価結果を報告書としてまとめました。

横須賀美術館の運営評価は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものです。

美術館は 1 年間の活動をまとめ、自らの評価（一次評価）を行います。一次評価を運営評価委員会に報告し、運営評価委員会は活動内容を市民目線でチェックし、二次評価を行います。併せて、美術館の業務改善、よりよい活動につなげていくことを目的として、改善点や活動の提言を行います。

評価全体の流れは PDCA サイクルによる改善を基本としています。個々の業務を計画(P: Plan)し、実行(D:Do)していき、その内容を評価(C:Check)し、これを改善(A:Action)につなげていきます。

毎年この活動を繰り返していくことで、よりよい横須賀美術館を目指していくものです。

1 評価項目

評価項目は美術館の設置目的に沿った「使命」と「使命」に基づいた 8 つの「目標」があり、それぞれの目標には、数的指標である「達成目標」と質的指標の「実施目標」を掲げ、これが具体的な評価をしていく以下の項目となります。

平成 30 年度の運営評価については、令和元年 7 月 16 日開催の令和元年第 1 回運営評価委員会で行いました。

I 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

達成目標	・年間観覧者数 100,000 人以上
実施目標	・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する 他 4 項目

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

達成目標	・市民ボランティア協働事業への参加者数延べ 2,400 人 (事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)
実施目標	・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる 他 1 項目

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

達成目標	・企画展の満足度 80%以上
実施目標	・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する 他5項目

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

達成目標	・中学生以下の年間観覧者数 22,000 人
実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する 他5項目

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

達成目標	・環境調査の実施（年2回） ・美術品評価委員会の開催（年1回）
実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う 他3項目

Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

達成目標	・館内アメニティ満足度 90%以上 ・スタッフ対応の満足度 80%以上
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う 他2項目

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ 360 人以上
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う 他2項目

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近 3年間の平均値を目安とする。
実施目標	・職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

2 横須賀美術館運営評価システムの概要

- (1) 自己点検の一次評価と、運営評価委員会による二次評価による評価。
- (2) 一年度の活動を翌年度に評価。
- (3) 3つの使命、8つの目標に基づく事業体系とした評価。
- (4) 目標ごとに達成目標（数的指標）と実施目標（質的指標）による評価。
- (5) 評価基準はS、A、B、C、Dの5段階で表示。

S：優れた成果を挙げている

A：目標を達成している

B：目標をほぼ達成している

C：目標にはほど遠い。より一層の努力を要する

D：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する

二次評価を評価委員が行う際には、上記のほか、F：判定不能を設けています。

3 平成30年度の評価について

使命Ⅰ 美術を通じた交流を促進する

- ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【達成目標】年間観覧者数 100,000 人以上 平成30年度実績 111,431 人

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	・観覧者数の目標人数を上げるよう再検討してよいのではないか ・観覧者数が目標を下回った「英雄豪傑たち展」は分析が必要
実施目標	A	A	・フィルムコミッション受け入れの増は収入増だけでなく美術館の認知度向上に繋がるため、今後も積み重ねが大切である

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

【達成目標】市民ボランティア協働事業への参加者数延べ 2,400 人

平成 30 年度実績 2,507 人

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	・ボランティア協働事業の参加者数値目標を上げたうえで目標を達成したことを評価する ・参加人数が昨年比で減となったことは、定員制の企画によるものと考えれば人数減であっても評価する
実施目標	A	※S	・改善のために工夫し、課題も把握している ・来館者の満足度を上げる努力をしている

※二次評価で実施目標の評価が上がった理由

将来に向けて、課題や取組みに対する改善点がしっかりと分析がされており、S 評価に近い A 評価と考えられる等の意見があり、二次評価は S 評価となった。

使命Ⅱ 美術に対する親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

【達成目標】企画展の満足度 80%以上 平成 30 年度実績 87.4%

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	・アンケート回収率を上げることが課題 ・例年、満足度が低い「解説・順路」について、性質が異なる気がするので、課題の把握に繋げるため、設問に工夫が必要
実施目標	A	A	・幅広い興味に対応するという視点からも、多様でバランスよく企画されている ・ワークショップやアーティストトークを行い、来館者が美術に対する理解を深め、満足度に繋がった

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 22,000 人 平成 30 年度実績 20,805 人

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	B	B	・長期休暇期間に家族向けの展覧会を開催している点は評価する ・若年層への観覧普及の意味から今後の展覧会企画や PR に努めていただきたい
実施目標	A	A	・学校と美術館の連携が十分図れており、多彩な事業を実施している点を評価したい

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

【達成目標】環境調査の実施（年2回）、美術評価委員会の開催（年1回）

平成30年度実績 環境調査2回実施、美術評価委員会を1回開催

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	・環境調査の範囲を展示室等にも拡大したことは評価したい
実施目標	B	B	・「ふるさと納税」の寄附金を積み立て美術品の購入財源とする道筋ができたことを評価する

使命Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

【達成目標】館内アメニティ満足度 90%以上、スタッフ対応満足度 80%以上

平成30年度実績 館内アメニティ満足度 95.1%

スタッフ対応満足度 88.5%

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	※S	・施設内の案内サインは対応が必要 ・満足度は高い水準を保っている、今後も高い水準を維持することを期待する
実施目標	A	A	・人的サービスが優れている ・施設の老朽化が進む中、十分な改修・メンテナンスが実施されていると思う

※二次評価で評価が上がった理由

前年度より満足度はアップしていること、数値を見ると大変努力をしている等の意見があり、二次評価はS評価となった。

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

【達成目標】福祉関連事業への参加者数延べ360人以上

平成30年度実績 426人

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	・美術館の基本的な事業と他館と連携して行う事業を合わせて目標値としているが、分けて考えてもいいのではないかと
実施目標	A	A	・事業の見直しを行うなど、限られた人的資源の中でかなり高い水準のことを行っている

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

【達成目標】電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近３年間の平均を目安とする

	H30 (目標)	H30 (実績)
総電気使用量 (kwh)	2,507,000	2,625,210
水道使用量 (m ³)	4,470	4,635
事務用紙使用枚数 (枚)	241,500	226,500

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	B	B	・目標には達成していないが、天候・気候などの外的要因で電気・水道使用量は大幅に変動するものであり仕方がない ・契約電力を見直すなど、経費節減の努力をされている
実施目標	A	A	・今後もサービスを低下させず、経費削減を意識し事業に取り組んでももらいたい

※詳細は別添「平成 30 年度 横須賀美術館 運営評価報告書」のとおり。

4 今回（平成 30 年度）評価時にいただいた意見等に対する今後の取り組み等について

使命Ⅰ 美術を通じた交流を促進する	
目標① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる	
【評価委員会からの意見等】	【今後の取り組み等】
・観覧者数の目標人数を上げるよう再検討してよいのではないか	・近年の状況や来年度の展覧会の内容等を勘案し観覧者見込数の見直しを検討する

<参考>

評価を受けての改善への取り組みについて

- (1) 前年度（平成 29 年度）評価時にいただいた意見等に対する平成 30 年度の取り組み等について

使命Ⅰ 美術を通じた交流を促進する 目標② 市民に親しまれ、市民の交流活動の拠点となる	
【評価委員会からの意見等】	【平成 30 年度の取り組み等】
・ボランティア協働事業の参加者は目標値を大きく上回っており、目標人数を再検討してもよい時期にきていると思われる	・イベントの企画内容から参加人数の見込みを検討し、参加者目標を 2,000 人から 2,400 人とした
使命Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める 目標④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する	
【評価委員会からの意見等】	【平成 30 年度の取り組み等】
・夏休みに美術や図工の教科書にある作家など、子どもや保護者が興味をもつ内容の企画展をお願いしたい	・夏季に動物をモチーフとした木造彫刻の展覧会を開催し、秋には小学校高学年から中高生が興味を引きやすいシャガール、ミロ、ダリを展示する展覧会を開催した
目標⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する	
【評価委員会からの意見等】	【平成 30 年度の取り組み等】
・美術品等取得基金にかかる市議会の議論や行政の取り組みの概要が、資料に簡潔にまとめられることを望む	・平成 30 年度第 2 回会議において、監査委員による美術品等取得基金への意見及び市議会答弁の資料を作成し委員に説明を行った
使命Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する 目標⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する	
【評価委員会からの意見等】	【平成 30 年度の取り組み等】
・受託事業者に対して、定期的な打ち合わせチェックは必要と思われ、特にミュージアムショップは雑貨屋的な感じがする	・ミュージアムショップとは定期的な打ち合わせを行い、平成 30 年 11 月からショップで電子マネー（スイカ、パスモ）、クレジットカードの使用が可能となった ・新たな美術館オリジナルグッズ（クリアファイル、手ぬぐい、ボールペン、トートバッグ）の製作・販売を開始した

横須賀美術館運営評価委員会 委員名簿

(50 音順)

	氏 名	役職等	区分
委 員 長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授	学識経験者
委 員 (委員長職務 代理者)	菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事	関係団体の代表
委 員	柏木 智雄	横浜美術館副館長	社会教育関係者
委 員	草川 晴夫	観音崎京急ホテル社長	関係団体の代表
委 員	丹治 美穂子	横須賀市立鶴久保小学校校長	学校教育関係者
委 員	祓川 由美	市民委員	市民
委 員	本間 康代	市民委員	市民